

# 令和5年度 川西市 認知症地域支援推進員活動報告

## 認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名（各包括に1名ずつ専任の推進員を配置）
- 2 認知症地域支援推進員の役割
  - (1) 認知症の人が認知症の容態に応じて必要な医療、介護等のサービスを受けることができるための関係機関との連携体制の構築
  - (2) 認知症の人等への相談・支援
  - (3) 医師会や認知症サポート医、認知症疾患医療センター専門医等との連携
  - (4) 認知症初期集中支援チームとの連携及び支援
  - (5) 川西市認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議との連携体制の構築
  - (6) 認知症カフェとの連携、運営支援業務
  - (7) 認知症予防事業の推進業務
  - (8) 認知症の人やその家族の支援ニーズの把握
  - (9) 地域の実情に応じた認知症施策の企画調整への協力
  - (10) その他認知症に関すること

報告者氏名: 東谷地域包括支援センター 篠崎善之

川西市福祉部介護保険課中央地域包括支援センター 田上美由紀

# 川西市の認知症に関する施策の方向性と取り組み

## 川西市高齢者保健福祉計画 第8期介護保険事業計画

令和3(2021)年度～令和5(2023)年度

### 基本目標3 認知症になっても自分らしく暮らす ～認知症施策の充実～

認知症施策推進大綱に基づき、認知症予防の啓発、取り組みを一層充実していくとともに、認知症になっても、自分らしく、希望を持って住み慣れた地域で安全・安心に暮らし続けられるよう、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」の両輪で認知症の人を支える仕組みづくりを進めます。

項目	方向性	具体的取り組み	地域の取り組み
(1) 認知症の予防と啓発	①認知症の予防 ②認知症の早期発見と適切なケアの普及	介護予防教室 認知症ケアネット 認知症チェックリスト	— — —
(2) 認知症支援体制の充実	①認知症地域支援推進員の取り組み ②認知症初期集中支援チームの取り組み ③地域における支援体制の充実 ④地域のみまもりネットワークの構築	認知症地域支援推進員 認知症初期集中支援チーム 認知症サポーターやキャラバン・メイト等の養成 認知症カフェ助成金 認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議 認知症みまもり登録、靴用ステッカー 認知症行方不明者SOSネットワーク 川西行方不明者SOSネット	— — 認知症サポーター養成講座、キャラバン・メイト連絡会 認知症カフェ(11か所)、認知症カフェネットワーク連絡会 — 地域ケア会議 認知症行方不明者SOSネットワーク訓練 協力者登録
(3) 若年性認知症への対応		ニーズの把握と支援サービスのあり方の検討 市民などへの啓発	— 若年性認知症カフェ

### ● 新規・拡充施策

施策	内容
チームオレンジの立ち上げ	認知症の人ができる限り地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族の支援ニーズと、認知症サポーターなどによる支援をつなぐ仕組みである「チームオレンジ」について、認知症地域支援推進員とともに立ち上げます。

## ・認知症の人、家族の社会参加、本人やご家族の声を起点とした活動

日頃の認知症相談を蓄積。



当事者（ご家族含む）の方々が、どのような事で悩み、何を希望しているかを把握。



- ・他の方々はどのようにお暮しなのか知りたい！（ご家族）
- ・望ましい対応で関わることが大事と分かっているけれど、、、（ご家族）
- ・気づいたら、数年間他者と交流をもっていなかった、、、（ご本人、ご家族）
- ・簡単な料理でも作れるようになったらなあ、、、（ご家族）
- ・みんなで料理して、一緒に食べたいなあ、、、（ご本人）

まずは、できることから・・・

### ◎ 家族介護者支援

取り組む課題：同じ境遇にある方同士を集めてつなぎ、家族会を発足させる。

具体策・手段：介護者の心身のケア・フレイル予防

・・・**料理教室**という手段を使って



目標：参加者同士がつながること。交流が継続すること。

**・認知症の人、家族の社会参加、本人やご家族の声を起点とした活動**

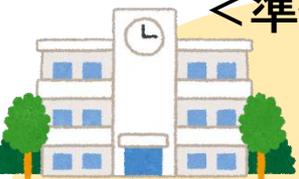
◎ **家族介護者支援**

取り組む課題：同じ境遇の方の集まり家族会の発足させること  
目標：参加者がつながり、**継続すること。**

具体策・手段  
**料理教室**

みんなで作って一緒に食べる

<準備>



場所：小学校家庭科室・・・校長、教頭先生と交渉  
講師：喫茶店のマスター・・・休業日にお店借りる



**趣旨、目的を伝え  
ご理解協力得る！**



<参加者募る>

- ・ご夫婦で参加  
（どちらかが認知症）
- ・親を介護している子
- ・みんなで料理したいという認知症本人  
（地域のサポーターの一人が付き添い）



**認知症の人と家族の一体的に支援へ変更**

具体策・手段は予定通り進め、同じ境遇にある方々がつながり、  
結果、一つの「会」、認知症の方も一緒に参加できる「場」になるよう図る。

# 認知症かどうかなんて、関係なし！

## 体が覚えた記憶を呼び覚ます！

～本人～

- ・家では料理させてもらえなかったから、楽しい。
- ・普段していないから、自分にできるかと思っていた。
- ・みんなと一緒にだから不安な気持ちは消えていた。



～家族～

- ・家では料理をさせていなかったけれど、まだまだできることがあると分かった。
- ・料理はしているが、我流だった。料理を覚えて家でもトライしたい。
- ・同じ境遇で、しかも近所に住んでいたことを知っただけでも嬉しかった。
- ・この数回で終わるのは、、、次年度以降も続けたい。



出会うこと

つながること



話し合い

思いを共有

• 最後に

認知症の人、ご家族の声をかたちにする。 企画や運営のイメージをかたちにする。  
頭で理解を進めるより、目的を定めて、動いてみること。

動けば動くほど、色んな人と出会い、知り合っていくそのプロセスを大切にすること。

小さな一歩でも踏み出せたのは、当事者（家族含む）方々や、  
取り組み内容に賛同協力があったことです。

この取り組みは始まったばかりです。当事者の方々の声を引き続き集め、  
それを元にして、みんなで次のマス目へ、ゆっくり進んでいけたらと思います。